

農業DX構想（仮称）検討会（第4回）
議事要旨

日時：令和3年3月2日（火）10:00～12:00

場所：Web 会議システムを用いたオンライン開催

出席者：別紙のとおり

【議題概要】

- 農林水産省から、前回の指摘を踏まえた追加資料として農業情報の標準化の現状について説明があった。また、農業・食関連産業の関係者から寄せられたご意見のほか、これまでの検討会における議論の整理、農林水産省で検討中の農業DXの実現に向けたプロジェクト、農業DX構想（仮称）取りまとめに当たっての原則（案）及びその策定に向けた基本認識（案）について説明があった。
- その後、以下のような議論があった。
 - ・ 将来にわたって食料を供給するという持続性の観点から、DXは、新規就農者への技術継承という人の持続性や、環境負荷の低減など環境の持続性という面でも貢献し得ることについて記載すべき。
 - ・ これまではスマート農業をどう実装するかというに目を向けていたが、農業者の行動やビジネスジャーニーに目を向けることが必要と認識した。また、食物を食べる人の立場に立って、未来の食料の確保も含め、食べる人が何に困っているのか、その解決にデジタル技術をどう活用するのかを考えることが重要。
 - ・ DXによって消費者にも農業側の情報が届きやすくなると思われるので、消費者ドリブンな考え方だけではなく、農業側の事情を理解した消費行動が行われるよう、どう消費者を巻き込んでいくかも検討するとよいのではないかと。
 - ・ DXが進むと不要となる仕事や組織が出てくるので、それに併せて既存のサービスや組織の改変も進めていくことが必要。
 - ・ DXによって情報伝達の手段が拡大し、個人の属性に応じた情報提供が

可能となるため、ＩＴリテラシーの有無によらず多様な人々にＤＸの恩恵を届けられるようにすべき。

- ・ 農業データの標準化の取組については、ロードマップを作成して、いつまでに何を実施するか明確に定義することが必要。また、進捗状況を数値で示すことも重要。
- ・ 農業ＤＸプロジェクトには、現在実施中の取組だけでなく、2030年の農業ＤＸ実現に必要な新しい取組も盛り込んでいくことが必要。
- ・ データ活用の重要性をしっかりと書き込むことが必要。ＤＸの推進に伴って蓄積されていく様々なデータについて、将来の政策の立案だけでなく、過去の施策の分析にも活用すべき。
- ・ 10年後も個人経営体が農業者の大宗を占めることが想定されることから、ＤＸ実践の当事者と個人経営体にどう認識してもらうかに意を尽くすことが必要。
- ・ 高い意識を持つ農業者であっても、農業ＤＸは先端機械の導入のことだと受け止めている場合が多い。それだけではなく、都市と農村が近くなるなど、農業ＤＸは様々な人とつながるチャンスであるし、農業現場の課題解決につながるものであるという理解が進むよう取り組むべき。
- ・ 農業ＤＸ構想については、取組の拠り所としてしっかり書き込む必要もあるだろうが、本文とは別に、農業が他分野とつながることでもっと楽しくなるといったことを示すようなわかりやすい文書を付けることも一案。
- ・ カーボン・ニュートラルの実現に向けた議論のように、社会全体を動かすには高い目標を掲げることも必要。高すぎる目標を示す必要はないが、可能な範囲の目標だと、農業が他産業からますます遅れてしまいかねない。高めの目標を設定すべき。
- ・ 様々な主体がつながる、つなげていくという視点は重要。農業ＤＸは、アーリーアダプターだけではなく、農業全体に関わる取組であることを明記すべき。2030年における農業者の構成を想定して、2030年時点の農業者をいかに広く支えていくかという観点で目標を設定すべき。
- ・ 消費者ドリブンな考え方は、農業のプロダクトアウトの考え方の反省から強調されてきたものと思うが、最近は見直しの議論もあり、農業者・消費者と２次元的に捉えるのではなく、双方がつながって価値を共有・共創

するという発想で検討することも重要。

- 以上を踏まえ、三輪座長より、事務局から示されたように、農業DX構想については、2030年頃を展望して、デジタル技術活用の現状、コロナ禍の影響を含むDX実現の課題、農業DX実現の基本的方向及び農業DXの実現に向けたプロジェクト、という構成とすることについて提案があった。
- これに対し、各委員から賛意が示されるとともに、以下の意見があった。
 - ・ 新しいことに取り組むには前向きなイメージが重要。本文のほかに、明るい未来を想起させるような文書もあるとよいのではないか。
 - ・ プロジェクトの内容のほか、スケジュールについても設定した内容をアジャイルに見直していくことが適当。
 - ・ アジャイル型の開発においては、やらないことを含めてビジョンを固めることが重要だが、行政機関の場合はやらないことを決めるのは難しいので、農業DXプロジェクトについては、優先順位も含めてスケジュール設定しておくべき。
- これを受けて、三輪座長より事務局に対し、本日の議論を踏まえて農業DX構想案の作成を進めてほしいと発言があった。

(以上)

(別紙)

農業DX構想(仮称)検討会(第4回)

出席者名簿

(五十音順、敬称略)

泉 翔太 神奈川県厚木市 農業委員会事務局 主事

荻野 浩輝 一般社団法人 AgVenture Lab 代表理事

加藤 百合子 株式会社エムスクエア・ラボ 代表取締役

下山 紗代子 内閣官房 IT 総合戦略室政府 CIO 補佐官/一般社団法人リンクデータ 代表理事

○中谷 朋昭 東京大学 大学院農学生命科学研究科 准教授

宮島 香澄 日本テレビ放送網株式会社 報道局 解説委員

◎三輪 泰史 株式会社日本総合研究所 創発戦略センター エクスパート

(◎は座長、○は座長代理)